

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171100225		
法人名	有限会社 ケアリンクス		
事業所名	グループホーム せせらぎの家		
所在地	千歳市新星2丁目2番3号		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年11月6日

【情報提供票より】 (平成19年9月21日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年3月15日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 暖房費月5,000円(11-3月)	
敷金	(有)(45,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

## (4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	6名	要介護2		1名		
要介護3	1名	要介護4		0名		
要介護5	1名	要支援2		0名		
年齢	平均	84歳	最低	75歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊勢内科小児科クリニック・千歳佐藤整形外科医院・宮川歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームせせらぎの家は、千歳市の中心街から、やや奥まった住宅街にある。ホーム前にバス亭があり、駅から車で10分程の距離に位置し、家族等の訪問に便利である。広い敷地内には利用者が楽しめるように、花、野菜畑があり、また、リビングに居て間近に森林の紅葉を楽しめる、豊かな環境に恵まれている。廊下、居間などは、窓を大きくとり、建物全体が明るい。利用者と職員は、居間の両側に配置してあるソファにゆったりと座り、笑顔で会話を楽しんでいた。数ヶ所のグループホームを立ち上げた経験をもつ事業部長は今年に就任し、管理者、職員と一体になり、意欲的に改革を進めている。利用者に向き合うことで、職員の向上心が高まり、チームワークもよく、今後、さらに、利用者本位のケアを目指す姿勢が伺える。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された洗面台、トイレなどのハード面は検討中であるが、その他、モニタリング記録での統一、感染マニュアルの整備、事故防止の取り組み、外部研修計画、管理栄養士による栄養チェックなど、いずれも改善できている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、テキストで学び、各職員が評価表に記載している。職員は利用者視点でのケアを見直す機会と捉え、全員で話し合い、改善するなど、取り組みへの意識が高まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催しており、自己評価、外部評価の報告も行ない、会議での意見はホームのケアに活かしている。当ホームは、介護相談窓口の設置や子供SOSの行政委託を受け入って地域に貢献している。一方、事業部長は市の窓口を頻繁に訪問しており、実情を報告し、課題も提言しているが、さらに、母体法人主催の研修会を開き、地域の人や介護サービス事業所者に参加を呼びかけるなど、サービスの質を高めることに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、「せせらぎ便り」を発行している。便りのコメント欄に各利用者の近況の情報を添え、家族が安心できるように工夫している。意見や苦情へのアンケート調査を実施する他、管理者や苦情担当の職員が、家族が帰る際に、何気なく言えるように必ず声をかけ、意見なども苦情として書面で取り上げ、会議録に残し解決に向けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	管理者が町内会の副班長を申し出て、町内会の行事や作業、近くの保育園の運動会等、可能な限り町内会の活動に参加している。今後は、身近なところでの関りも取り入れ、利用者、職員がゴミ袋を持ってゴミ収集活動に参加するなど、日常的な交流を考えているところである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体事業者会社の理念をホーム理念として掲げている。家族のように暮らすのを支える、との分かりやすい内容になっているが、地域住民との関係性は明記されていない。	○	地域密着の視点を加えた理念を、利用者も交え、職員間で検討されているので、事業所独自の理念づくりを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各居室にも掲げ、利用者にも分かるように配慮している。利用者の中には、「家族として考えて貰い、ありがたい」との言葉もあった。職員は、スタッフ研修で理念を学び、毎日のミニカンファレンスで確認し、日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は、町内会の副班長を引き受け、地域との関係づくりに力を注いでいる。町内会の行事や作業、近くの保育園の運動会等、可能な限り参加をしている。「せせらぎ便り」の回覧や24時間の機能を活かし、「子供SOS」の登録など、地域との交流を図っているが、管理者中心になっていることもある。	○	町内会の婦人会や民生委員、住民などを対象に認知症の講義をし、啓蒙活動をしているので、検討中である「利用者、職員がゴミ袋を持ったゴミ収集活動」を通した日常的な交流の実現を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価内容は、各職員が評価表に記載し、管理者がまとめた内容を職員参加の会議で確認した。職員が、表に記入する中で、利用者本位の視点で日常のケアを見直す機会になっている。尚、前回外部評価で指摘された点は、ほぼ、改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。自己評価、外部評価の報告も行なっている。会議では、ホームの状況を説明し、課題なども提示しているが、現状では、地域包括支援センターとの連携を深める活動を進めているところである。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業部長が頻繁に市役所に出向き、担当者に現状の報告や課題について伝えている。9月に、母体法人が主催した「人生の先輩、高齢者から学ぶことを語る会」の中で、事業部長は参加者（行政、介護サービス事業所、民生委員、NPO事業、ボランティアなど）に、課題を取り上げ、サービスの質についての話題を提供している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「せせらぎ便り」を発行し、行事や職員異動の挨拶も載せるようにしている。その中に、コメント欄があり、各利用者の近況を知らせる工夫もなされている。最低でも月1回は来訪される家族に、本人の心身状態や暮らしぶりを説明し、その際に金銭管理をも報告し確認印を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、実際には利用されていないため、アンケート調査を実施している。管理者や苦情担当の職員は家族が帰る際に必ず声をかけ、意見なども苦情として書面で取り上げ解決に向けている。職員間でも研修、話し合いの機会ごとに対応への気づきを深めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、異動時は、事前に予測していることなので、家族の来訪時に伝えるようにしている。運営者は、職員の交代を最小限に抑え、馴染みの環境づくりに努力をしているところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現職研修、リーダ研修と段階に応じて、運営者が教科書をつくり、研修を行なっている。また、資格取得を希望する職員には、研修の参加を支援し、外部研修では、スキルに合わせ、いづれも、業務扱いにしており、職員育成に力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千歳市では、同業者組織が未確立のため、母体法人が経営するグループホーム間での研修や交流になっている。現在、運営者が中心になり、千歳市10ヶ所の事業所に呼びかけ、趣旨の賛同を得て、研修会開催の準備をしているところである。	○	研修会開催に向けての準備をきっかけに、千歳市内のグループホーム組織への樹立を期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居への体験システムはとっていないが、慣れるまでは個人のペースに合わせて対応している。皆の中に自然に溶け込めるようなレクリエーションの楽しみを工夫し、家族の訪問がある時には、頻りに話し合いを持つなど、安心感が得られるように努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、花作り、野菜の育て方など、利用者の得意な面を教わりながら、一緒に楽しんでいる。以前はマニュアルに沿って介護をする姿勢もあったが、本人を中心とするケアのあり方を学び、ゆとりのある接し方が出来るようになり、職員と利用者が共に過ごす関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前には、主に、心身の課題をあげ、マニュアルに沿って対応をしていたが、センター方式の導入から、個人の思い、暮らしなども加え、生活の視点で把握できるようになってきた。担当職員は、本人から直接情報収集することで意向や思いを引きだしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業部長からセンター方式の取り組みを伝えられ、毎日、利用者一人ひとりのミニカンファレンスを続けた。この積み重ねでチームとして利用者の課題が見えてきて、本人・家族・介護支援専門員と関わり、担当職員が介護計画案を作成し、介護支援専門員が完成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直しは、3ヶ月毎で定期的に行っている。利用者に変化があるときは、利用者・家族とも検討して緊急にカンファレンスを持ち、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護、医療連携体制加算の届出をしており、24時間対応は実施している。利用者の状況に合わせて、点滴・インスリン注射・自己道尿の管理、受診時の送迎を行っている。地域へは「認知症の窓口」を設置し、相談にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は、希望通りに行っている。受診時の介助は家族の都合で、職員が介助することが多い。受診結果は、直ちに家族へ報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合・病状の急変時・ターミナル期の対応については、入居時に利用者・家族の意向を確認し「同意書」をもらい、対応方針の共有をしている。	○	当事業所では、現時点まで看取りのケースは無いが、今後、看取りを希望するケースが増えることと予測しており、終末期対応の覚悟はしていること。スタッフの体制作りのための「ターミナルケア」の社内研修を具体的に計画しているので、更なる取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の入居時に、「個人情報保護」については文書で説明している。今年から事業部長が就任したことで、プライバシー確保について細部の指導を受け、日常的に確認されるようになった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「認知症ケア専門士」の資格を有している事業部長の日常的な指導で、全職員が、利用者一人ひとりのペースの尊重を理解・納得出来るようになり、利用者に合わせゆったり過ごさせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入は、店が遠いこともあり買い置きを多くして、その中から利用者と職員が共に選ぶようにしている。調理・後片付けは、台所のスペースが幾分狭いため、食堂の大テーブルに食器・器具を移動させる工夫をして職員との共同で、利用者が主体的に作業している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、基本的には午後2時からになっているが、曜日の制限は設けていない。利用者の羞恥心・恐怖心・負担感への配慮は、全職員が認識している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームが市街から奥深い場所に位置しているのので、戸外での生活をする場が不足していると気に掛けている職員もいるが、ホーム内では裁縫・きり絵・炊事などの場面作りをしている。職員の努力下で、利用者の表情が明るく生き生きしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然豊かな環境の中で、近くへの戸外散歩は利用者の希望に沿って職員の連携で対応している。遠距離の名水公園・支笏湖・大型店への外出は、可能な限り車で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出の癖や傾向をつかみ、日中は鍵をかけずに対応している。出口が3箇所あり1箇所にはチャイムがついているが、一人で出かけるような利用者には常に職員が目を向けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年1回消防署の立会いのもとに行われている。管理者は町内会の副会長を引き受け、積極的に地域へ啓蒙活動を行い、ホームの広報誌「せせらぎ新聞」でホームの様子を紹介し、協力を得られる体制を進めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の必要摂取カロリーは、提携病院の管理栄養士の管理と病院の資料を参考にして、個別支援をしている。水分摂取量も一人ひとり記録して確認している。利用者が食べたい物については、希望がメニューに取り入れられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入ってすぐの場所に布張りのソファが置いてあり、いつでも腰掛けられる安心感がある。共用空間は明るく綺麗で、不快な音や臭いは無い。トイレの仕切りがカーテンで、利用者の足元が確認できる作りになっている。居間の観葉植物・サボテンの花が心地良い季節感を与えていて、利用者に関心を寄せている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具などの設置は、家族と利用者の好み・希望に任せており、職員は口出ししていない。利用者から入室許可を得られた居室内の様子は、事前情報からの利用者の生活歴を窺わせる状況となっている。家族から宿泊の希望があれば、準備は出来ている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。